

説教題：「**神の御心のクリスマス**」

聖書箇所：イザヤ書11章1-5節（1078頁）、テサロニケの信徒への手紙 I 3章1-13（376頁）

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93-1-18 交読詩編：詩編126編1-6節（143頁）

讚美歌：83/271（喜びはむねに）/264（きよしこの夜）/265（天なる神には）/27

「今週の聖句」〔…あなたがたはよく知っているはずですが。実に、神の御心は、あなたがたが聖なる者となることです。…〕（テサロニケ前書4：2-3）

「牧師室の窓」 「クリスマス待ちにし人は主に召され天(あま)つ園にて安らかならむ」

「教会に心を尽くし仕えたる主の御許(みもと)にて務めおりしや」

(1)皆様おはようございます。本日はキリストのお誕生、クリスマス礼拝を皆様と共に迎えることを主なる神に感謝いたします。先日、天に召されましたO・K姉の写真がこちらに置かれています。Kさんは日本の歴史の中でも激動の時代に人生を歩んで来られました。長い年月の信仰生活を過ごされたK姉は、クリスマスを大切な日として迎えてこられたことでしょう。本日の礼拝には天の国で座席にお座りになり参加されておられるものと思います。

(2)扱て、先程は司式者から旧約聖書のイザヤ書11章の1節～5節を朗読して頂きました。11章の1節～10節まで一括りにして、太文字で「**平和の王**」との見出しが書かれています。この箇所は別名「**メシア預言**」と呼ばれています。メシアとは「油注がれた方」という意味です。旧約聖書では、外国からの支配によって苦しむ人々を救うという意味です。加えて、正義と公平によって人々に救いをもたらすという考え方が育まれてきました。それが長い年月の中で救い主の誕生を待つ様になってきました。1節に書かれている「**エッサイの株**」とはダビデ王国を作ったダビデの父親の名前が「**エッサイ**」です。エッサイの子孫から、弱く貧しい人々を救う人が現れるという希望がここに記されています。

皆様ご存じの様に、新約聖書の第1ページ、マタイによる福音書第1章1節は次の様に始まります。

〔(マタイ伝1:1)アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。〕アブラハムからイエス・キリストまで全部で42世代の人々の名前が記されています。その中に5人の女性が表わされています。この系図が正しいのか正しくないのかは分かりませんが、救い主が生まれるという希望が僅かながらも連綿と引き継がれてきたのです。希望が大きいのか、小さいかは大切でしょう。併し、小さいながらも希望があるということが重要です。小さな希望が見捨てられずに大切に育まれてきたことを聖書が語っていることに着目すると、聖書を読む嬉しさが、大切さが実感できるでしょう。

(3)本日の聖書箇所はテサロニケの信徒への手紙 I (略して、テサロニケ前書)の第4章1節～12節です。南板橋教会では今年の5月のゴールデンウィークから新約聖書のエフェソの信徒への手紙を読み始め、11月からテサロニケの信徒への手紙 I (テサロニケ前書)を読み続けています。いずれもパウロが書いた手紙とされています。エフェソは、現在のトルコ共和国にある港町、2015年に世界遺産(文化遺産)に登録された都市です。テサロニケは、現在のギリシャ共和国では首都アテネに次いで人口が多い都市です。パウロ一行はエルサレムからシリア、小アジアへとイエス・キリストの名による救いを宣べ伝えて行きました。

アジアの西の果て、エーゲ海の港町の宿屋でのある夜、眠っていたパウロは夢を見ました。夢の中に出てきた人々の求めに応じて、船に乗り地中海を渡ってヨーロッパへとキリスト教を伝えたのです。何らの手掛かりの無い外国で始めた伝道がテサロニケ教会の設立でした。開拓伝道と言う意味ではO・H牧師も開拓伝道を行ない、O・K姉はそれを支えたのですね。

…余談ですが、私は会社勤務時代に船を動かすスクリュー・プロペラを作る会社を訪問したことがあります。私のチームメイトがその会社を担当していました。スクリューをご存じの方もおられ

るでしょう。大きなスクリューは人間の背の高さの何倍もあります。スクリューは水面下にあって見えない力を発揮し、的確に船を動かします。スクリューがなくては巨大な船も進み動くことはできません。その会社の方は、見えない場所で懸命に働くスクリュー・プロペラを造ることを大切にしていますと話しておられました。その感動は今でも忘れることが出来ません。

…世の中には、人々の目に見えない所で働いておられる方々がいます。教会も見えない所で祈り続けなければなりません。この教会は祈りによって支えられてきました。まことに感謝です。余談序でに申し上げますと、私の家の近くには保育園が幾つもありまして、天気の良い日には小さな子供たちが保母さん、保父さんに手を繋がれて散歩をしています。おはよう、こんにちはと声を掛けますと、元気な返事があり、この子供たちが次の社会を担っていくのです。保母さん、保父さんたちの働きに感謝しています。

(4)きょうの聖書箇所テサロニケの信徒への手紙Ⅰ(テサロニケ前書)の4章1節を見てみましょう。  
〔(4:1)さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者としてわたしたちは更に願い、また勧めます。あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。〕パウロはテサロニケ教会の人々に呼び掛けているのです。パウロたちの開拓伝道によって、今までは自分の利益を追い求め、刹那的な快樂を求める生活を良しとする社会の中にいた人々が、主イエス・キリストの救いによって生きることを体験したのです。このテサロニケの人々にパウロは「更に願い、また勧めます」と呼び掛けています。1節に書かれている「神に喜ばれるために」とは何でありましょうか。それは「目的をもって人生を生きる、人生を無駄に過ごさないために神と共に生きる」と言い換えることが出来ます。

一方、「どのように歩むべきか」とは「人生を学ぶこと、生きること、手に職を持ち生活すること、考える力を持つこと」と言い換えることが出来ます。1節の後半を見てみますと次の様に書かれています。「そして、現にそのように歩んでいますが、どうか、その歩みを今後も更に続けてください。」人間には、「続ける」ことが簡単の様で難しいのです。1回2回、10回20回は出来ても、地道に続けることが難しいのです。

…私は仕事である鉄道会社を担当したことがあります。電車の運転手さんや車掌さんが仕事の引継ぎ交代する時に「指差し確認」を行なっています。些細な行動の積み重ねが人々の命を守り、働く人々を、会社を守るのです。先週、赤坂のサウナ施設で人命が失われたことが報道されていました。非常ボタンが作動せず、出入り口のドアが壊れて開かなかったことが報じられています。どんな仕事も、誠実に、約束を守り、期限を守り、相手のことを思って、「神に喜ばれるためにどのように歩むべきか」が大切です。併し、そのことを教える学校は日本では殆んどないでしょう。命の大切さを教えることが重要であります。それだけでは不十分です。その為は何をすべきか、具体的な行動を教えることが更に重要なのです。これは教会が人々に伝えるべきキーワードです。クリスマスのサンタクロースから頂くプレゼントとは、子どもにとっても、大人にとっても、物品ではなく、この言葉だと私は思います。教会は見ざる、言わざる、聞かざるではなりません。居眠りをしては神の御用を果たさないのです。

(5)3節の前半を見てみましょう。〔実に、神の御心は、あなたがたが聖なる者となることです。〕「聖なる者」とは、旧約聖書では「主の慈しみに生きる者」と理解されています。例えば、サムエル記上2章9節には「主の慈しみに生きる者の足を主は守り…」、詩編37編28節には「主は正義を愛される。主の慈しみに生きる人を主は見捨てることなく、とこしえに見守り…」と記されています。一方、新約聖書では、イエス・キリストの贖いによって罪赦され聖別された者とされています。旧約聖書のレビ記19章2節3節(191頁)には次の様に書かれています。〔レビ記(19:2)イスラエルの人々の共同体全体に告げてこう言いなさい。あなたたちは聖なる者となりなさい。あなたたち

の神、主であるわたしは聖なる者である。(19:3)父と母とを敬いなさい。わたしの安息日を守りなさい。わたしはあなたたちの神、主である。) この人の世で聖なる者となるその第一歩はこのレビ記19章3節が言っている様に、「父と母とを敬いなさい。わたしの安息日を守りなさい。わたしはあなたたちの神、主である。」に尽きるでしょう。

私は既に父母を亡くしていますが、「父と母とを敬いなさい」と言うことは、立場を逆転すれば、私たちが、父や母の自慢の娘・息子になりなさいと、言っているのです。 そんなことはどう考えても出来ないのですが、そうではありません、出来ないことはありません、よくよく考えてみなさいと、レビ記は私たちに励ましています。

3節の後半から6節までにはこの世の人間の注意事項をパウロは語っています。加えて、7節8節では、3節の「神の御心」を別の言葉で言い換えています。お聞き下さい。〔(4:7)神がわたしたちを招かれたのは、汚れた生き方ではなく、聖なる生活をさせるためです。(4:8)ですから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、御自分の聖霊をあなたがたの内に与えてくださる神を拒むことになるのです。〕ここを読み解くヒントがあります。

新約聖書が言っている「罪」とは、ギリシア語の本来の言葉は「的はずれ」と言う意味です。私は学生時代と社会人になってから弓道を学びましたので、「的はずれ」がどんなものかを体で体験してきました。「罪・的はずれ」がいけないではありません。「的はずれ」であることを認識しない事・理解しようとしないう頑固さが「的はずれ」なのです。「的はずれ」とは何か、この8節に書かれています。「御自分の聖霊をあなたがたの内に与えてくださる神を拒むことになるのです」

ここがポイントです。神から与えられるクリスマスプレゼントを受け取りましょうと、パウロは私たちに勧めています。そのプレゼントの中身が11節12節に書かれています。〔(4:11)..落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい。(4:12)そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩み、だれにも迷惑をかけないで済むでしょう。〕この12節に書かれている「品位をもって歩み」とは何でしょうか。

…「品位を持つ」とは、相手を尊重する、正直であることに尽きます。より具体的には、挨拶をする、感謝を述べるということだと考えられます。皆様にとり「品位をもって歩む」とは、どのようなことでしょうか。「品位をもって歩む」ことは、世界の共通語だと私は思います。私は、若い頃に仕事で東京にある幾つかの外国の大使館に行きました。国の違いも、宗教の違いも、文化の違いも、「品位をもって」接し、約束を守ることが、信頼となり、信用の基礎となります。世界の共通語です。この共通語は相手の心に直接に伝わるのです。

(6)最後に申しあげます。K姉の葬儀手順はH花店の社員にお世話になりました。私は棺(ひつぎ)の組み立ての時に担当者に挨拶をしました。葬儀の当日には、H花店ならではの花が配置されました。H花店の本社は港区内にあります。今から45・6年前に私はその近くで勤務していました。職場の同僚がH花店を担当しており、その同僚から一緒に来て下さいと声を掛けられて、H花店に行きました。花事業の将来・未来について考えて案を出して欲しいと依頼されました。私は調査部門とも検討して、提案書をつくりました。半世紀近くも前のことです。花の業界はこの50年で大きく変わりました。バラの切り花については、アフリカのケニア・エチオピアから、或いは、南米のエクアドル・コロンビアからの高級品の輸入が多くなりました。切り花の生産には日照時間の長さや昼夜の寒暖差が大きい赤道直下の標高の高い場所が適しています。見事な切り花が日本の花屋さんの店頭にも届くようになりました。今朝も家の近くの花屋さんご夫婦におはようございますと声を掛けて来ました。私はコロナ時代の前の2年間、居住地自治体の社会人農業大学講座で花の育成を体験しました。花を身近に感じる生活は心を豊かにします。K姉のご葬儀の時に、皆

様から添えられたお花と共に見送られたご葬儀は厳(おごそ)かで晴れやかでありました。神の御心のクリスマスを迎えるに相応しいひと時と思いました。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちはあなたの御恵みによって生かされていることに感謝いたします。人生の辛い日々にも、安らかな時にもあなたに向かって祈ることが出来ます様にお支え下さい。本日はクリスマス礼拝の時を過ごし、主の誕生を心静かに待ち望んでいます。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。天に召されましたO・K姉に主の平安がありますように。

主イエス・キリストの誕生が人々の希望となり、平和が実現し、平和が持続しますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン